

*Building Dignity*

Japan Adventist Academy

三育学院中等教育学校

『 任せる 』

大人に限らず、子どもたちの中でも誰かに役割や仕事を任せるといことがなかなかできずにいる様子を時折、目にします。

「忙しい、忙しい」が口癖の人がいますが、その言葉の裏側には、「私は他の人より仕事をしている」といった、優越感のようなものがあるように思います。見方を変えたと「他の人は、頼りにならないから任せられない」と言っているのと同じではないかと感じます。「人に任せるより、自分で



只今、今年収穫した南部小麦を乾燥、精麦中です

やった方が早いから」というフレーズもよく耳にします。しかし、本当にそうでしょうか。自分は周りの人に比べてそんなに仕事ができる存在でしょうか。別の人がある仕事をすれば、もっと早く正確にやり遂げられるという可能性はないでしょうか。この仕事を人に任せるより自分でやった方が早いと感じているとすれば、私はまだその仕事の本質をつかみ切れていないのかもしれませんが。だから、人にうまく説明することができないのです。いつでも、自分の代わりをお願いできるような仕事の仕方をするということは、実はとても難しいことです。その人が、抜けたら回らなくなるという状況は、その組織のリーダーとしては、決して良い姿とは言えません。

また、人に何かを任せる際には、その仕事を丸々任せるとい気概も必要だと思います。人手が足りないから助けてもらおうといったたぐいの仕事しか任さないとしたら、その人が、働くことにやりがいを感じることができない状況が続いていくことになるのも当然です。人に動いてもらおうというのは、難しいことですし、私が思っている通りのことを他の人がやってくれるということは、実はあり得ないことなのだと思います。どうしてそれを期待してしまうために「人には任せられない」というフレーズが出てきてしまうのかもしれませんが。

寮の役員たち、研成会の役員たち、音楽活動の役員たち、教師会、教会役員会、等々、どのレベルでもこれと同じことがいたるところで起こります。もし今、あなたが自分の中で「これは人に任せられない」と感じる仕事に取り組んでいる最中だと感じているとするならば、私はその仕事をまだ十分に理解できていないのだと思っておいた方がよさそうです。

クリスチャンとして生きるという事は、自分のやり方、自信、プライドといったたぐいのものを一旦手放して、神様に委ねる生き方を選ぶという事です。自分の思いと違うことが起こったとしても「必ず最後はうまくいく」と確信して前進する生き方です。

人にも、神様にも「任せる」ことができるようになれば、私たちの口から「忙しい、忙しい」のフレーズは消え、うまく回転し始めるのかもしれませんが。

校長 尾上 史郎

「あなたのパンを水に浮かべて流すがよい。月日がたってから、それを見いだすだろう。」

コヘレトの言葉 11:1

